



発行・京都障害者スポーツ振興会
題字 芝田 徳造

つどいの避難訓練（報告）

京都障害者スポーツ振興会 つどい担当

去る3月8日（日）府立体育館の「第434回障害者スポーツのつどい」で「火災避難訓練」を行いました。

大きなテーマは「『つどい』で避難訓練をする。」ということでした。「つどい」って参加者の皆さんにとって何なんだろう？というところからスタートしました。多くの皆さんは学校・会社・作業所・地域での避難訓練を経験されたと思います。慣れた場所・慣れた人の中での訓練だったと思います。

はありませぬ。このような日常とは少し違ったスポーツ場面での避難訓練なのです。

まず、安全に迅速に避難していただく方法を考えました。つどいの中で過ごしていただく皆さんの動きを考えて見ますと一人ひとりする種目も順番もちがいます。名簿で集まって避難する事は難しいと考えました。そこで、まずその時しているスポーツのある大きくつどいのコーナー（卓球・卓球バレーコーナー）軽スポーツ・パドミンナー・バスケット・オーブンスペースコーナー・トランポリンコーナー）ごとにまず集まってコーナーごとに避難することにしました。

次に、そのコーナーの中で自力移動が難しい方や急いで避難が必要な時に移動介

助が必要な方は、介助するスタッフについてもらいました。

そして次に、体調が悪くなつた方や不安になつて移動できなくなつた方には緊急用の車いすや担架の準備をし、救護室の設置をしました。また、介助するスタッフについてもらいました。実際、緊急用の車いすを利用し、救護室で休養される方がおられました。

最後に、トイレや更衣室や廊下で過ごしている方に避難を呼びかけ残っている方がいないか調べことをスタッフにしてもらいました。受付は避難後、逃げ遅れることなく皆さんそろっておられるかを調べるのに名簿にしたがって作った色の輪ごとに集まっていたいただきました。

つどいは、参加者に気楽にきていただき、スポーツそのものを楽しんでいただくのみならず、家族・友人・つどいのスタッフとともにスポーツを楽しむ中でこのころのふれあいを味わっていたのだと、不審者進入など困ったことが何もなくて当たり前なのですが、スタッフは、引き続き参加者の方々とともにスポーツを楽しむことを進めながら、いざという時の対応も頭の隅にしっかりと置

るようになつたのではないかと考えます。参加者の皆様自身もこの避難訓練に参加されたことで動きを経験していただけでこのよう自信を持っていただけたかなと考へます。普段のつどいと違って戸惑つた方やしんどい思いをされた方スポーツもつとしたかたと思つておられる方もおられるかもしれせん。4月からは、またいつものつどいで楽しんでいただきます。

最後になりましたが、今回の避難訓練は府立体育館と京都障害者スポーツ振興会が協力しておよそ1年前から計画を進めてまいりました。府立体育館のご尽力で消防署・地域の消防団にも協力をいただきました。ありがとうございました。消防署・地域の消防団・体育館・京都障害者スポーツ振興会・つどいスタッフ・参加者の協力のもと実施でき、協力の輪が広がったことも成果であったと考へます。ご苦勞様でした。ご協力ありがとうございました。

行事予定	4月	14(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月の つどいは 5 / 10 第2日曜日
		18(土)	フライングディスク講習会	京都市障害者スポーツセンター	
		19(日)	211回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
		26(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
		29(祝)	京都障害者フライングディスク大会	京都府立体育館	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ				TEL/FAX075-712-7010	
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/				(2009年3月22日に一部更新)	

スボ振ルネサンス (13)
 心でつなぐ活動を！
 京都障害者スポーツ振興会
 副会長

水谷 裕

発足当初から生え抜きの川面氏を新しく会長に迎えて早くも一年。

以前、この「スボ振ルネサンス」で、振興会には、専門的な関係者から障害のある人やその家族まで、様々な立場の人が活動に参加して、その良さやおもしろさを「カレールの味」の味に例えて、個々人それぞれの持っているスパイスとしての味があり、それぞれブレンドされて、振興会という味を出してこられたのだということ、スパイスが多ければ多いほど、ユニークな味が出せ、サジ加減を間違えば、美味にもなるし、食べぬようにもなるということと述べ、最近の味は、特定の扱い易いスパイスを簡単に使用し一部の目立つスパイスの味が突出して、本来の味からは離れつつあるように思うと書き、川面新会長の、「味を原点に戻す」、スパイス調合のサジ加減に期待すると書きました。しかし、この一年「スボ

振ルネサンス」を連載するための題材探しもさることながら、振興会の立ち上げ当初から活動をとともに行ってきた川面新会長を支え、本来の味を再び造り出して欲しいという想いもあって、少し距離を置いて見て来ました。

誕生した38年前から比べると障害のある人々のスポーツ活動は、いうまでもなく、人々に認知されるようになり、それに伴って振興会活動に参加してくれるスタッフ等も格段に増えて来たのです。つまり、スパイスの種類も増えたのですから、本当なら、より深見がある味が出せるものだと思っていたところ、現在の振興会活動の軟弱さを露呈する要因が潜んでいたと考えます。それは、どういうことかというところ、「カレールの味」に関わらず、何の料理をするにおいても、創る料理に關係する素材やスパイスなどを、ただ単にそのままナベに放り込めば料理が出来るといふものではなく、素材やスパイスなどを活かした美味しい料理を完成させるには、素材やスパイスひとつひとつに対して丁寧な手間をかけてした下処理と日頃の

品質管理をしておかなければならないことは、料理に心得がある人なら誰しもご存知のことと思いません。

新しいスパイスなどが増えても、即、何時でも使えるように下処理が出来ていなければ、必要な味は出せないし、古くからあるスパイスなどについても、いつまでもその品質が保たれられるというものはなく、そのための手入れを常々行っておかなければなりません。

このことを、振興会に置き換えて言うと、新しく参画してきたスタッフに対して、それぞれの持つ持ち味を出せるような環境の整備をしないまま、つまり、振興会設立の歴史や存在の意義、障害のある人々のスポーツのあり方などの研修を不十分のまま活動現場に送り出し、一駒としてしか扱えていないように見える。また、古くから活動してきたスタッフは、それぞれの分けられた担当の事業に甘んじるがごとく、守備範囲を守ること

に専念し、自らの持つスパイスとしての特有の味や香りが薄れてきてきているの歯車のようになっていて動いているだけにしか見えないのです。

料理をする時、誰もが美味しく作るうとしますが、そう思うばかりに、時には、やり過ぎて失敗することもあり得ます。そんな時、単に造りなおせば良いのではなく、どうして、美味しく味が付けられなかったか。また、美味しく出来た時において

も、なぜ、美味しく味が付けられたかを検証、反省、探求などをし、次には、あるいは、次にもどうすれば美味しく造れるようになるかと考えを常に持ち、次に繋げる姿勢、つまり「向上心」を忘れてはならないのです。素材がしっかりとっていないと、川面新会長の「味を原点に戻す」サジ加減に期待しても難しいことで、この「向上心」の積み重ねがあつてこそ、個々のスパイスの味を活きたもの出来るのではないのでしょうか。

全国車いす駅伝
京都A優勝

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	優勝	
愛知B	広島B	茨城B	中国B	埼玉A	愛知A	京都B	長崎	福岡	兵庫	山口	三重	仙台	大分	熊本	名古屋	大阪	宮崎	静岡	岡山	横濱	高知	東京	茨城A	九州	広島A	長崎	神戸	大分A	京都A	
1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間
9分26秒	8分28秒	7分26秒	5分29秒	4分31秒	2分51秒	2分10秒	1分59秒	1分57秒	1分52秒	1分44秒	0分31秒	0分11秒	59分34秒	58分43秒	58分17秒	57分19秒	55分43秒	55分34秒	54分47秒	54分42秒	54分21秒	54分10秒	53分55秒	53分39秒	53分24秒	50分07秒	48分35秒	47分03秒	47分01秒	